2024 年 5 月 27 日

日本の海岸線を歩く会　歩行報告書

報告者　横山泰一

1. 概　要

歩行名称	東北東
歩行区間詳細	スタート地点：松島海岸駅
	ゴール地点：渡波駅
実施期間	2024 年 4 月 23 日～25 日
全歩行距離	54km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏　名	年齢	歩行日数	備　考
1	リーダー	横山泰一	79	3 日	WV13 期
2		横山弥生	77	3 日	WV13 期
3		蔵田道子	75	3 日	WV15 期
4					
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地　～　到着地	歩行距離	歩行参加者	宿泊先
1	4/23	松島駅～野蒜駅	16km	横山泰一、弥生、蔵田	石巻サンプラザホテル
2	4/24	野蒜駅～渡波駅	24km	同上	同上
3	4/25	万石浦一周	14km	同上	

4. 参加費・費用

①参加費　　参加者述べ日数　9 日　　参加費合計　900 円

②費用（横山泰一の場合）

交通費	石巻往復	16,620 円
	仙石線、石巻線	800 円
宿泊費		15,400 円
飲食費		7,000 円
費用総合計		39,820 円

5. 歩行の詳細

歩行ルート

（1）初日：

東北新幹線はやぶさ 9 号で 3 人が合流して仙台駅で仙石線に乗り換えた。横山弥生と蔵田（A 班）は松島海岸駅で下車して石巻方向へ歩き、横山泰一（B 班）は野蒜駅で下車して松島方向へ歩く、2班に分かれた対面歩行で中間地点の陸前富山駅で合流することにした。

【松島海岸駅～陸前富山駅　6km　歩行者：弥生、蔵田】

11:38　松島海岸着。駅舎を出て、瑞巌寺に向けて歩き出す。

12:11　瑞巌寺着。瑞巌寺参拝し、寺院内を見学。寺院は高い岩壁に囲まれ、庭園や別宅がある。造りは京都の繊細さに比べると武士の作りという感じである。とはいえ豪華なものとなっている。磨崖仏あり。参道を歩き、海辺に出て、松島の島々を眺めつつ五大堂に向かう。

海側の参道から瑞巌寺を望む（杉並木は津波被害を受け多くは伐採された）　五大堂にわたる桟橋

五大堂　　五大堂から松島の島々を望む

12:35　五大堂に到着。岩壁の上に創建されているが、東日本大震災では津波の影響で現在閉鎖中。そこからの景色を楽しみ、昼食のできる海辺の公園に移動した。

12:50　東日本大震災慰霊祈念碑のある海辺の公園で昼食。そこからは五大堂が望められる。周辺の海岸の津波浸水状況を示した大きなタイル張りの地図が設けられている。

13:20　出発。福浦島に寄ろうとしたが、そこに渡る橋が有料なので諦め、海岸線をそのまま行く手の橋まで行こうとしたが、崖に阻まれ、やむなく引き返し、国道 45 号線を東に行き、高城川の橋を渡り、海岸線に出て、海岸線を歩けるところを歩く。ここを含め、東松島の海岸線一帯からは、松島の島々が見え美しい。東日本大震災では、東松島の海岸線は津波被災を被ったが、14 年目の今、少なくとも外から見た感じは、復興した感じに見受けられる。

また県道 27 号線に入り、西の浜貝塚の看板の横を抜ける。海岸線に向かうべく、手樽海岸公園

に向けて右折。
14:34　手樽公園に到着し、海の見えるベンチで休憩。

手樽公園のベンチからの海

14:50　同公園から大浜方面へ山間部を通り進む。新緑の木々の間に桜が咲き、昨年 4 月の歩行を思い出させた。ありきたりの言葉だが、山里の春が旅人を柔らかく包む。
15:15　大浜の海岸線に出て歩く。小さな漁船が桟橋に横付けされ、反対側には菜の花畑。

菜の花畑が作られている

桟橋には漁業者の姿が

道は梅ヶ沢から北上し、ほんの少しの間、海岸線に出ると、そこは深い内海になっていて、先ほどの松島湾の景色とは全く異なる。穏やかな風景だが、海が深く入り込んだということは、それだけ津波の被害もあったのではないだろうか。高い堤防に囲まれた海岸線を進むと、陸前富山の駅が海岸線に設けられていた。B 班は、先に陸前富山駅に到着していて、迎え？　それとも海岸の景色の見物？に、こちらに歩いてきた。合流は駅より手前の海岸線。

15:46　陸前富山駅着　本日の歩行終了。16:14 発の仙石線で石巻へ。

（弥生記）

【野蒜駅～陸前富山駅　8km　歩行者：泰一】

11:47　野蒜駅着。駅舎を出ると向かい側に東日本大震災復興祈念公園への入り口建物が見え

た。ここから地下通を通って海側へ出た。

エレベーターも完備した野蒜駅

復興祈念公園への地下通路入口

12:00 トンネルを抜けると眼下に東松島市東日本大震災復興祈念公園が広がっている。祈念広場へ降りて震災復興モニュメントの前へ出た。ここは旧野蒜駅があった場所で、震災遺構としてホームと線路が残されている。震災復興伝承館を見学。

地下トンネルの先から見た復興祈念公園

職員の勧めでまず2階の展示場へ行き、東日本大震災の記録をスクリーンで観た。展示場のパネルでは年次ごとの復旧・復興の状況が展示されている。

震災復興モニュメントとその後ろに旧野蒜駅のホーム　　震災復興伝承館入口

12:25　伝承館を出て、東名運河を渡る。海岸までの 300～500m にわたりクロマツを中心とした苗が植えられ、東日本大震災の津波により被災した海岸防災林の再生が進められている。
12:35　野蒜海岸　　昼食

野蒜海岸から松島方面　　石巻方向の眺め

12:50　防潮堤上を歩き出す。
13:10　海岸を離れ東名へ向かう。
13:23　東名運河を渡り、運動公園を通る。県道 27 号奥松島パークラインを歩く。
13:45　峠を超えて大塚へ。山の桜と新緑が美しかった。
14:05　陸前大塚駅通過
駅前に「民謡育ての親　後藤桃水生誕地」の看板がある。宮城民謡といえば「大漁歌い込み」が有名だ。
松島のサーヨー 瑞巌寺ほどの(ア コリャコリャ)
寺もないトエー
(アレワエーエ エト ソーリャ ア コリャコリャ 大漁だエー)

と歌いながら歩いた。A 班は瑞巌寺を見物しただろうか？　山は桜の花と新緑で美しく心も躍った。

新東名町から大塚へぬける峠付近の桜

県道沿いにホタテ貝の貝殻に囲まれて作業している人がいた。ホタテも養殖しているのかと思って聞いてみた。この貝殻に糸を通して海に下げると牡蠣の幼生が貝殻に着床して育つとのこと。初めて養殖牡蠣がホタテの貝殻で育つことを知った。因みに、牡蠣は海水中で産卵・受精し、幼生は海水中をさまよい、気に入った場所に足で付着し、大きくなる。場所が気に入らなければ移動する。この時期にホタテ貝殻に付着させる。牡蠣の成長に応じて、ホタテ貝殻の間隔を広げてやると２、３年で出荷できる大きさに育つそうだ。

穴あきホタテ貝殻を針金に通す作業

牡蠣養殖用のホタテ貝殻の採苗連の山

閉まっている牡蠣小屋を横目で眺め、県道と鉄道が海岸線に沿って走っているその一角に菜の花畑が現れた。電車が来れば写真になると思っていたら目の前を一両の電車が通り過ぎてしまった。

海沿いを走る仙石線

仙石線と菜の花畑

14:43　陸前富山駅に到着。A 班を待つことになったが、少し時間があったので迎えに出た。遠くに人影が見えたら豆粒ほどの大きさなのに話し声が聞こえて来たのには驚いた。

陸前富山駅

A 班と合流

15:40　A 班と合流。
16:14　陸前富山駅から JR 仙石線で石巻駅へ。16:51 石巻駅着、石巻サンプラザホテルに宿泊した。

（泰一記）

（2）2日目：

A 班は石巻駅から仙石線で野蒜駅へ移動して石巻方向へ向かって歩き、B 班は石巻線で女川方面の渡波駅へ移動して石巻方向へ向かって歩き、陸前赤井駅で合流することにした。

【野蒜駅～陸前赤井駅　15m　歩行者：弥生、蔵田】

09:04　野蒜駅着。改札を出ると広場があり、その向こうには高台に移転した住宅が建ち並ぶ。

09:15 トンネルをくぐり、東日本大震災復興記念公園着。
　階段を下り、伝承館に向かう。津波で被災した低地の土地が空き地公園に姿を変え、その向こうには、旧野蒜駅と伝承館が見える。
09:35 伝承館着。1 階及び 2 階、そして旧野蒜駅を見学。この伝承館は一見の価値がある。
09:55 伝承館を後にし、東名運河を渡り、津波が浸水し、防災林が植栽されている区域を海岸に向かう。
　海岸線には、他のところと同様に、嵩上げされた堤防が続く。堤防の上に上がると、その向こうには、砂浜が広がる。写真でわかるように、野蒜海岸は松島と異なり、広い砂浜で、広大な太平洋が一望できる。

写真左上：東日本大震災復興記念公園
写真上：野蒜海岸：駅から広い砂浜まで、海水浴客で賑わっていたとのこと。防潮堤と幅広い防災林帯に遮られ、駅も高台に移され、なぜか寂しい光景が広がる。
写真左下：鷺の巣岩の横を通り奥には不老山が見える。これらを含めた島々が、砂州の発達によって取り込まれて陸地内に出現した景観とのこと。

　堤防の脇には、鷺の巣岩、不老山があり、独特の風景を醸し出している。不老山で行く手を阻まれ、堤防から降り、防潮林を横切り、県道 27 号線へと出て、歩く。途中から県道 60 号線に合わさり、鳴瀬川沿いの道を上流へと、対岸へ渡る橋を求めて進む。視界は、田んぼと川堤そして川。

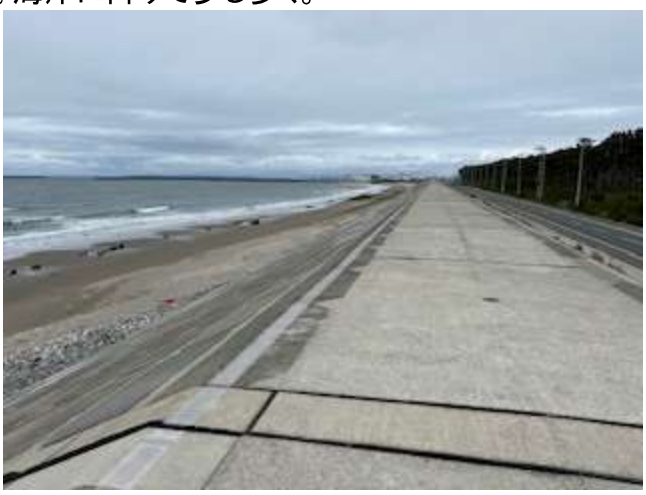
その向こうの田んぼと上流に向けて広がる。
10:50　鉄道手前の国道から脇に逸れた道で、休憩。
11:00　また、歩き出す。この頃には、川は並行して 2 本（鳴瀬川と吉田川）となっている。周りは、川が作り出したのだろうか、比較的広い田畑の平地である。
　鉄道橋をくぐり、1.2km 歩いて橋の袂に辿り着き、国道 45 号線の橋を渡り終えたところで、下道におり、同国道をくぐる。海岸を目指す。道の両側は田んぼである。突如、突風が吹き荒れ、大粒の雨が降る。朝の天気予報では、12 時過ぎから雨になるということだったが、少し早い。予報通りだと、この時間以降は雨となるようだ。風がかなり強いので、海岸に沿ったサイクリングロードを行くことは諦める。サイクリングロード沿いの内陸部は航空自衛隊の基地で、いざという時の逃げ場も逃げ道もない。
　基地と仙石線の間の道を歩くことにした。空には、基地を飛び立った戦闘機が長い飛行機雲を引いて、海の方に行く。どういうわけか、どれも4機が並んで飛んでいく。蔵田さんは大いに感激し、私はといえば、その爆音という騒音公害に、付近の住民はどのように感じているのだろうかと心配をした。
12:00　陸前小野駅（無人駅）の駅舎で昼食。
12:30　駅を出発し、線路沿いの国道 45 号線を歩く。途中から 45 号線を離れ、より海岸に近い道を行く。右手の基地の向こうには、松がパラパラと並んで立っているのが見える。管制塔のようなものがいくつか、それ以外の建物、さらには巨大な「避難の丘」のようなものが見える。
　基地の終わるところから左折して 500m 程歩いて、国道 45 号線に再び入る。雨の中、休むところもなく、集合場所の駅に達する。
15:30　陸前赤井駅に到着。

（弥生記）

【渡波駅～陸前赤井駅　15km　歩行者：泰一】

　石巻駅から石巻線に乗車。
9:43　渡波駅到着
9:45　駅前から南東に歩き始め、国道 398 号にぶつかる。渡波歩道橋を右折して国道を石巻方向へ向かう。松原町に入ると左手に堤防が見え出したので、左折して細い道を堤防に向かう。
10:10　堤防へ登る。堤防の上は風が強く、霧雨。海岸に降りて少し歩く。

渡波の海岸から牡鹿半島を眺める


石巻へ続く海岸線

10:30　渡波海水浴場　　霧雨で牡鹿半島が霞んでいた。

10:40　魚町に入る。 この町名は石巻に相応しい。大型船も停泊していて流石に大きな港だ。

渡波海水浴場と霧雨に霞む渡波漁港

石巻港

10:53　石巻魚市場通過

建物に魚の絵が描かれている。石巻魚市場は「全長 880m の日本一の長さを誇る魚市場で、世界三大漁場である金華山沖に近いという立地に恵まれ 24 時間休むことなく水揚げが続く」（石巻魚市場サイトから引用）そうで、さすがに長いと我が足が感じた。

石巻魚市場

しかし、近年の温暖化により三陸沖の海流の流れが変わり、近海物の水揚げが減っていると、石巻サンプラザホテルの支配人が話していた。魚市場前を歩きながら、あまり活気が感じられなかったのはそのためかと妙に納得した。

11:13　カモメの大群に遭遇

何故かと思ったら魚加工場の前に落ちた小魚を食べていた。

道路にあふれるカモメの群れ

工場の前に落ちた小魚に集まるカモメ

カモメに気をとられて旧北上川の河口まで来てしまった。堤防沿いに日和大橋に近づいたが、橋ははるか上を通っていて 500m ほど戻ってやっと大橋の歩道へ上がることができた。

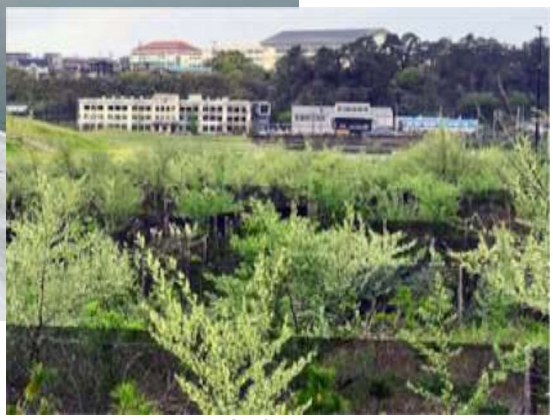
11:48　日和大橋を渡る

大橋の上から広大な公園が見渡せた。その向こうに震災遺構門脇小学校や日和山が見える。務めていた会社工場があった関係で、震災後、ここを何度か訪れ、日和山の上から何も無くなった荒地を見てきたが、この方角から眺めたのは初めてで、感無量だった。

12:00　石巻南浜津波復興祈念公園

南浜町は石巻市の発展とともに湿地や松林だった場所が住宅地となった。東日本大地震による津波と火災で 5000 人にも及ぶ人が亡くなっている。宮城県の中でも最大の被害に見舞われた地域。ここに広大な公園が 2021 年に完成した。慰霊碑に黙祷してから伝承館へ向かった。雨が降り出した。

日和大橋から日和山を望む



南浜の育成中の防災林

公園入口

みやぎ東日本大震災津波復興祈念館入口

12:09　みやぎ東日本大震災津波復興祈念館
　屋内の直径 40m の円形の建物にひさしが付いた外観は国立競技場を思わせる立派なものだ。建物の一番高い部分の屋根の高さは 6.9m で、津波が停滞した時の高さを体感できるように設計されている。展示内容は、津波からどうしたら命を守れるか、どのように復興してきたかに工夫した内容となっている。もっとじっくりと見たかったが、お腹も空いて来た。持参した昼食を広々とした多目的スペースで食べたかったが、だめだろうと思い、スタッフに聞かずに諦めた。外は雨で、仕方なく、建物の庇の下で立ったまま食事した。
12:40　雨風が強く、カッパ上下を着て出発する。石巻震災遺構門脇小学校を見学する。
　門脇小学校を後にする。雨はそれほどでもないが、風が強い。祈念公園の北側には綺麗な復興住宅が建ち並んでいる。
　県道 240 号を進む。大街道東地区に入ると「金華山道」の看板が目に入った。石巻街道から別れて牡鹿半島へ向かう道が江戸時代には多くの金華山神社詣の旅人で賑わったようだ。
　県道 240 号から国道 398 号さらに国道 45 号を歩く。雨はあがったが風が強い。市街地をひたすら歩いた。国道から少し入ったところに駅が見えた。
14:54　陸前赤井駅到着
　無人駅で駅前にはお店はなかった。カッパを脱いで A 班の到着を待つ。
15:30　A 班が到着、15:45　JR 仙石線に乗り石巻駅へ。

震災遺構門脇小学校

津波と津波火災の状況を残している本校舎

（泰一記）

（3）３日目：
　予定では路線バスを利用して牡鹿半島を歩く計画でしたが、泰一の膝が悲鳴をあげていることからリアス線のアップダウンの歩行に耐えられないと判断し、平坦である万石浦を歩くコースに変更した。歩行計画書作成時点では万石浦は湖として扱ってしまっていたが、これは汽水湖であり、海岸線を忠実に歩くためには一周する必要がある。石巻駅から JR 石巻線で浦宿駅へ移動し、C 班（泰一、蔵田）は北側の海岸線を歩き、D 班（弥生）は南側海岸線を歩いて、それぞれ渡波駅で合流することにした。
9:33　石巻駅発女川行きの電車に乗り浦宿駅で下車して 2 班に別れて行動を開始した。

【浦宿駅～渡波駅　北回り　6kmm　歩行者：泰一、蔵田】
10:00　浦宿駅から国道 398 号を歩き始める。晴れていて気持ちがいい。
10:27　踏切を渡って海岸堤防に出る。

踏切を渡る

浜の石には牡蠣殻が付着

10:30　堤防上を歩いて行くとやがて山が迫り堤防が消えて、再び国道を歩く。歩道も無くなり、大型車どうしがすれ違う時は山側にへばりついて車両をやり過ごした。国道を避けて女川温泉華夕美への入り口道路に入る。駐車場の先に国道へ出る道があることを期待したが、舗装道路は駐車場までだった。祈る気持ちで駐車場の先に続く細い半分草に覆われた砂利道を進む。
11:10　上手いことに浜の堤防に出られたので一休みする。
　堤防の海側には漁船が係留されている。その向こうには牡蠣の養殖の浮きが浮かんでいる。堤防上の通路は作業場や魚網などの置き場となっている。
11:27　ホタテ貝の山に囲まれたテントでホタテ貝殻の糸通し作業を行なっている作業場を見学。
　石巻市は日本有数の牡蠣養殖、出荷産地で、ここ渡波の万石浦は「垂下式牡蠣養殖の発祥地」だそうです。あ～、焼牡蠣が食べたい。

静かな万石浦を歩く

11:45　国道へ出る。コンビニ前で休憩。
　大型スーパーイオンが現れ、宮城県立水産高等学校の前を通過した。高校の建物に「〇〇部が県大会へ出場」、「〇〇君大相撲△△部屋入門」などいろいろな垂れ幕が降ろされていて面白かった。
12:25 渡波駅で D 班と合流した。

牡蠣の養殖場

渡波駅にて

（泰一記）

【浦宿～渡波駅　南回り　8km　歩行者：弥生】

09:45　浦宿駅を右に行き、踏切を渡る。道の両側は工場があり、右側は、工場を保護する防潮堤の向こうに浦が見える。工場間の細い道を通って防潮堤から浦の写真を撮る。

道に戻り、針の浜を抜け、石塔群を覗く。道は、アップダウンがある。買い物の帰りらしく、荷物を積んだ自転車の高齢の方が、坂になると自転車を降り、自転車を押して登っていく。写真を撮りながら、のんびり行くと、水辺のベンチのそばでジュースを飲んでいる姿を見て、声をかけてみる。津波の影響は、太平洋に面しているところに比べると、たいしたことはなかったとのこと。

その後トンネルがあったが、横に巻道があり、そちらから新緑に囲まれた峠道を登る。

防潮堤より眺め。浦を渡る自動車用の橋

クリーンセンターへの道

10:45　突然女川クリーンセンターの建物が現れる。納得するような、違和感のような。道はトンネルの反対側で合流し、浦に沿って歩く。浦宿猪落線と呼ばれる道のようだ。道には、わざわざ、その改良事業について看板が出ており、「電源立地促進対策交付金事業」「電力移出県等対策事業」として行われたことが明記されている。さすが女川原発を抱える町らしいと感じられた。さて、その「猪落」には旧石器時代の「包蔵地」が広がる。低地からすぐ裏の斜面までのようである。周りを歩いてみたが、一見しただけでは、何があるのかよくわからない。その後、県道 2 号線と合わさる。

ところで、対岸はそれなりの低地部分があるのに比べ、こちら側はなべて切り立った崖とほんの小さな浜で構成されている。その浜も津波で建物等は洗われてしまい、荒れた浜となっている。とはいえ、現在は車の通行は禁止されているものの、浜に降りる道が残されている。

干潟のようになっている場所に出ると、白鷺が休んでいる光景を見ることができた。

11:53　なおも進むと、浦の入り口に架けられた橋（万石橋）が見え、渡波の集落に入る。この集落の前面は、牡蠣の養殖場が広がる。

12:05　橋に至る。橋を渡り、商店の立ち並ぶ通りを抜け、渡波駅に急ぐ。

12:15　駅に到着。真新しい駅舎を覗きながら C 班の到着を待つ。

道から下を見下ろすと、干潟もあり、サギが数羽遊んでいた。

街と万石橋

万石橋の上から渡波漁港（左側）

可愛い駅舎内の待合室

12:25　C 班と合流後駅前の食堂で昼食。

昼食後、石巻駅へ石巻線で移動し、駅前からタクシーで石ノ森萬画館へ行った。特別企画展として「11 ぴきのねこと馬場のぼる」展があることをホテルで知り、急きょ立ち寄ることにした。漫画館へとお願いすると、タクシーの運転手は「大人が漫画館ですか」と笑われたが、『１１ぴきのねこ』シリーズは息子に読んでやったり、息子が自分で読んだりと、はるか昔の思い出の絵本だ。馬場のぼるの人と成り、そして彼の作品全体を見て、今更ながらに、絵本の意味とありように納得した。歩いて石巻サンプラザホテルへ戻り荷物を受け取ってから石巻駅へ。仙台駅で夕食をとって、新幹線でそれぞれ帰宅した。

（弥生記）

感想

１日目の松島海岸は、さすが日本三景の一つといわれるだけあって、海岸線からの眺めは素晴らしい。かつ、歴史探訪の地でもあり、足早に通り過ぎなければならないのは残念だった。再度訪れて、ゆっくり景色や歴史を楽しみたい。ただ一つ見られた、国宝となっている瑞巌寺は、さすが伊達家の寺だけある。いまだ津波の被害から全面的に回復していないのだろうか。一部工事中だったのがちょっと残念。

とにかく、縄文時代の遺跡がここそこにあったのが意外だった。３日目も同様だった。

２日目は午前中から雨に祟られ、国道や県道を行かざるを得なかった。太平洋に直接開いた野蒜は、津波の被害がひどかった地域である。そのためか防潮林は幅広だ。またその中に、モンゴルのパオのようなものが数箇所で展開されていて、不思議な気分にさせられた。対岸の地域は、航空自衛隊の基地であるが、それなりのまちが展開されていて、基地で成り立っている街でやむを得ないのだろうが、その爆音はなんとも大変なことだ。

３日目は、牡鹿半島の入り口で、歩いたところは汽水湖となっていて、牡蠣の養殖が盛んのようである。ここも、津波の被害を受けたように見える。とはいえ、今は水面も穏やか。沿岸の道は起伏に富んでいる。晴れた空と新緑、そして穏やかな水面、誰一人見当たらない道を一人いくのは、

気ままな旅人の気分で、ホッとさせられた。

（弥生記）

今回は車を使わなくても鉄道が上手く使えて、ホテルも連泊だったので、良かったです。雨も酷くなくて、海岸線は歩けませんでしたが、行動出来てまずまずでした。
瑞巌寺、震災の伝承館、石ノ森萬画館等の見学場所も良かったです。

（蔵田記）

一日目の野蒜海岸と二日目の石巻南浜は東日本大震災で大きな被害を受けた地域で、その土地を歩き、その教訓を後世に残すための伝承館を見学できたことは良かった。13 年後の現在、震災による甚大な被害を受けたことが感じられないくらい復興していた。喜ぶべきだが、一方で、伝承館が末長く管理されていかないと、人々の記憶から被害が忘れ去られることにならないか。忘れてはいけないことを伝承館が伝えてくれている。その意味でとても重要な施設だと改めて感じた。これまで歩いてきた福島県、宮城県、そして岩手県、青森県に 3.11 伝承ロードが整備されている。その管理・維持費が今後の課題とならないか、少し心配になった。

二日目は天候が悪く、午後はただ歩くだけとなってしまった。いろいろ立ち寄ってみたら面白そうなところがあった。しかし、今回は 2 班に別れての対面歩行で、集合時間を設定していた。このため写真を撮ったり、見物する時間が少なくなり、また集合時間に間に合わそうとする負担をメンバーに強いてしまったことは今後の改善点であると思う。これからは、きままな旅人としてもっと自由に歩けることに重点を置いた計画にしたいと思った。今回、牡蠣の養殖について勉強できたのは収穫だった。次回は生牡蠣を食べながら歩きたい。

三日目のコース変更は、体調のためとはいえ、予定通り歩けなかったことが残念で、メンバーに迷惑をかけてしまった。ただ、天気も良く、コースもよかったので皆さん楽しかったようでほっとした。次回は金華山道を歩いて金華山黄金山神社にお参りできるように体調管理に努めます。

（泰一記）